



AIがあなたの代わりに働いてくれる時代がやってきそうです。

先生はAIクローン!

「自分の分身」として働くAIクローンを開発する会社があります。労働人口不足が深刻化する日本において、自分の分身が働いてくれれば自分とクローンの協働で何倍もの労働力となります。クローンの自分が複数いれば、人間よりもクローンのほうが総労働時間が多くなります。

しかも、このAIクローンはChatGPTのような誰にとっても万能で汎用なAIとは発想が異なり、「個人の特性や知識を反映した一つひとつが異なるAI」つまり、「個人の分身」として開発されたAIであり、個人単位で仕事の支援や代替をしてくれます。このAIクローンは個人の分身ですから、名前、性別、性格、好き嫌い、普段使っている一人称、肩書や職責といった個人のプロフィール、話し方や回答ルールなどの振る舞い方、個人が持つ特定の知識などの情報を入力することで誕生します。

なんでもAIクローンがやってくれるような気がしますが、この会社ではAIクローンに「物事を判断する責任」は持たせていません。最終判断を下すのは人間であり、そこまでの道のりを短縮することを目的としているそうです。

AIは完璧な回答を返してくれるものではなく、様々なデータから推測して適切だろうと思われる回答を返してくれるものです。ですから、最終的な判断までAIに任せるのは危険なのです。

このようなAIクローンが普及すると、先生の個性を反映させたクローンが個別に授業を行ってくれるかもしれません。まるで家庭教師のようにクローンの先生が指導してくれます。しかも個性を反映させたクローンですから言葉遣いや口癖、冗談のパターンもそのまま、本物の先生と接しているような感覚です。こんなクローンができれば先生の働き方も改善されるのでしょうか。しかし、個性を反映するのでしたら、先生自身も専門力や指導方法を高めていかないとクローンも成長しません。AIクローンの誕生は先生の働き方の質を変えることになるでしょう。

先生のクローンができるということは、生徒の皆さんのクローンもできるのでしょうか。しかし、クローンが学習しても生身の人間である皆さんの学習にはなりません。

デジタルは効率を上げるために活用することはできますが、使える知識や思考力を育てるにはアナログ的な取組が必要なのです。さて、未来の学校はどんな学校になるのでしょうか。



本物の先生

AIクローンの先生1

AIクローンの先生2

校長 松川 明義

【行事予定】

29日(水):性に関する指導LHR(1年)、人権学習LHR(3年生)

環境衛生検査

11月3日(月)~4日(火):とっとり産業未来フェス(ビッグシップ)

週末の大会 バスケットボール部、ラグビー部、県高校駅伝、演劇部

